

年頭のごあいさつ



美浦村長
中 島 栄

新年明けましておめでとうございます。

平成二十七年の新春をお健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

本年も「人と自然が輝くまち みほ」の村政運営の先頭に立ち、執行部と村議会の総合力を生かし、長い歴史が育んできた美浦村の文化を守りながら、皆さまとともに歩んでまいりたいと存じます。

さて、昨年を振り返りますと様々な出来事がありました。近年増加傾向にある自然災害は、昨年も日本各地に大きな爪痕を残しました。台風、噴火、地震、積雪等次々と猛威をふるいましたが、災害がいつ起こるか推定するのは非常に困難です。村では、想定外の有事にも備えあれば憂いなしとなるべく、予防・防災訓練等を住民の皆さまが参加・体験できる形で実施してまいります。皆さまにおかれましても防災意識を高く持ち、いざという時に速やかに行動できるよう日頃からの備えをお願いいたします。

日本経済は、これまで安倍政権が取り組んできたアベノミクスが功を奏し、一部の企業で給与引き上げが行われる等、好転の兆しが見受けられた一方、中小企業や一般家庭における景況感は改善せず、さらには消費税増税が個人消費の減退を招き、7、9月期のGDP（国内総生産）が減となる等、先行き不透明な情勢が続いています。

このタイミングで行われた衆議院解散総選挙は、このままアベノミクスを推進するか否かを国民に問う場となりましたが、結果は与党の圧勝となりました。それが国民の

「現在の路線を継続していこう」という意思の表れであるのならば、新内閣にはその期待を裏切る事のないよう、また、少子高齢化、人口減少等、山積する諸問題に対しても確かな政策の実行を進めていただきたいものです。

一方で明るい話題もありました。12月3日には小惑星探査機「はやぶさ2」が打ち上げられました。52億kmもの航行を経て小惑星から物質を持ち帰るという壮大なプロジェクトは、その分析により生命の起源に迫ることができると期待されています。また、ノーベル賞授賞式が日本時間の12月11日にスウェーデンのストックホルムで行われ、日本人では「青色発光ダイオード（LED）」の開発・実用化に成功した赤崎勇教授、天野浩教授、中村修二教授の3名がノーベル物理学賞を受賞しました。これにより日本のノーベル賞受賞者は22人となりました。誇らしい限りです。

全国の町村では少子高齢化が進み、深刻な状況が続いています。しかし、先人たちが守ってきた伝統文化の継承や自然環境の保全は私たちが担っていかなければなりません。魅力ある地域社会を継続していくためには、住民と行政が手を携え、主体的・自立的に施策を展開していくことが不可欠であり、それが基礎自治体たる美浦村の発展につながります。霞ヶ浦をはじめとした、美浦村が誇る自然豊かな景観は、人々の心を癒し、安らぎを与えてくれます。この素晴らしい環境を未来につないでいきましよう。

国におきましても、人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう「まち・ひと・しごと創成本部」を内閣官房内に設置しました。こうした国の支援を得て、他市町村の方から羨望され、「美浦村に行ってみたい」「美浦村に住んでみたい」と思われるような、特色ある、魅力あふれる施策を実施していきたいと考えております。

今後も「地域主権」の確立に向けて村民の皆さま自らが村づくりに参加され、「自分たちの村は、自分たちで創り守る」を念頭に、ともに発展していくよう、協働のまちづくりを推進してまいります。

結びに、村政へのご支援、ご協力を心よりお願い申し上げますと共に、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。